

# I 市 勢

1. 位置・地勢	.....	3
2. 沿革	.....	3
3. 市政	.....	4
4. 市域の変遷	.....	5
5. 人口・世帯	.....	5
6. 土地利用状況	.....	8



# 1 位置・地勢

八代市は、県都・熊本市の南約 40 km に位置し、市域は東西約 50 km、南北約 30 km で、約 680 km<sup>2</sup> の面積を有しています。

東は九州山地の脊梁地帯を形成し宮崎県に境を接し、西は不知火の海八代海を隔てて天草諸島を望みます。全面積の約 70% が山間地、約 30% が平野部からなっており、日本三急流の一つである球磨川の河口に位置する八代平野は、球磨川と氷川などから流下した土砂が堆積してできた扇状地と三角州を基部とした沖積平野と、藩政時代から行われてきた干拓事業により形成された平野です。

山・川・海そして広大な平野と多様で豊かな自然に恵まれており、特に一級河川の球磨川、氷川のもたらす豊富で良質な水の恩恵を受け、全国有数の農業生産地、県内有数の工業都市として発展してきました。

交通アクセス面では、昭和 55 年に九州縦貫自動車道八代インターチェンジ、平成 13 年には南九州西回り自動車道日奈久インターチェンジが開通しました。また、平成 16 年 3 月には九州新幹線の新八代―鹿児島中央間が先行開業、それに伴い J R 鹿児島本線の八代―川内間が経営分離され、第三セクター・肥薩おれんじ鉄道として開業しました。そして、平成 23 年 3 月には博多―新八代間の営業運転が始まり、九州新幹線全線が開業し、基本計画から約 39 年、ようやく九州の南北である博多―鹿児島中央間（257 km）が開通し、これにより鹿児島中央から新青森まで約 2,000 km が新幹線の線路でつながりました。

さらに、海の玄関口である八代港では、平成 11 年、韓国・釜山港を結ぶコンテナ定期航路が開設され、平成 21 年 4 月からは国内定期航路が神戸港との間に就航しています。なお、平成 19 年度からは 5.5 万トン級船舶に対応する水深 14m 岸壁の整備が進められており、平成 24 年 3 月に岸壁と泊地が完成しています。また、平成 22 年 8 月には、国の重点港湾に選定されており、南九州の物流拠点港として、さらなる飛躍が期待されています。平成 25 年度には、週 2 便の国際定期コンテナ航路に、韓国便 1 便、中国便 2 便が加わり、八代港のコンテナ航路は、さらに充実され、平成 26 年度においては、台湾への航路誘致に向けて取り組んでいます。このように、九州の真ん中に位置するという地の利から、陸・海路の交通の要衝となっています。

# 2 沿革

平成 17 年 8 月 1 日、八代市と八代郡内の坂本村、千丁町、鏡町、東陽村、泉村の 1 市 2 町 3 村が合併し、新「八代市」となりました。八代地域は、地理的、歴史的な共通点を持ち、同一生活圏・経済圏にあり、これまでも一部の行政サービスでは広域での取り組みを行っていましたが、近年の少子高齢化の加速、住民の日常生活圏の広がり、地方分権社会の推進など、社会環境や社会構造の変化に対応した新しいまちづくりを進めるために合併しました。

「やつしろ」の地名が文献上、初見されるのは日本書紀で、その地名の由来を肥後国誌は里俗の説として、「やつしろ上古ハ神所也、故ニ社（ヤシロ）ト言い、後ニ八代（ヤツシロ）と為ルナリ」と記されており、今日この説が一般的とされています。市の周辺には縄文・弥生・古墳各時代の遺跡が分布し、八代の文化のあけぼのは、その頃であると推察されます。

古墳時代末期、大陸から伝来した妙見信仰の広がりから、平安時代に妙見上宮、平氏政権時に中宮、源氏政権下で下宮―現在の八代神社（妙見宮）―が勧請され、下宮創建以後は、ここを中心に門前町が興り、八代に初めて商工業の諸座ができ、中世を通じて大いに栄えたと伝えられています。

戦国時代末期以降、佐々成政、小西行長らの領地となり、麦島に平城が築かれ、小西行長没後、加藤清正の領地下となったものの、元和 5 年（1619 年）の大地震により城郭が崩壊したため、幕府

の許可を得て築城に着手し、元和8年に新城が落成となりました。この八代城は江戸幕府の一国一城令にもかかわらず存置を許された城であり、当時八代が幕府にとって重要な衝と見られていたことがうかがえます。その後、細川忠興、その家老の松井氏が城主として滞在し、この間に産業経済が格段に発展し、肥後南部における政治・経済・文化の中心地として繁栄しました。

八代地域は本市の中央部を貫流する球磨川に育まれ、その排出土砂、そして不知火海の干満潮の著しい高低差による自然作用が相乗して干拓事業を可能にし、藩政時代から今日までに人工的に生み出された新地は約4000haといわれ、現在の千丁・鏡地域の7～8割は干拓によって造成された土地です。一方、球磨川の豊富な水は、広大な八代平野を潤し、古くから肥後米・豊表原料のイグサを初めとする農産物の一大生産地を形成してきました。

さらに、恵まれた自然条件に加え、臨海工業用地の造成、港湾施設の整備充実が図られてきたことから、中央資本の工場が早くから進出し、県南最大の工業都市としても発展してきました。

平成17年8月1日の合併により、新「八代市」として、今後さらなる発展を目指しています。

### 3 市 政

全国的に合併推進がなされる中、平成17年3月、近隣6市町村による廃置分合議決がなされ、同年8月1日に合併し、人口約13.7万人、約680㎢となる県下第二の都市、新「八代市」がスタートを切りました。

その背景には、人口の減少、少子高齢社会の到来という状況があり、本市もその例外にもれず、平成27年には人口が約13万人に減少、高齢化率は29.5%となり、国(26.0%)・県(27.5%)の平均を上回ると推計されます。また、いまだ景気の先行きが不透明で国の財政状況も厳しく、各自治体における行財政運営の効率化も求められているところです。

そのような中であって、新市建設計画(平成17年度～27年度)では、「“創世”輝く新都八代 ―豊かな資源を生かし、個性きらめく交流拠点都市へ―」を新市づくりの理念に掲げ、人・自然・産業・交通基盤などさまざまな異なった資源とこれまで旧市町村で培われたまちづくりを広域的観点から展開できるよう各施策に取り組んでいます。

この新市建設計画を尊重しつつ急速に進展する時代背景のなか、市の一体感の醸成を促すと同時に、多様化する市民ニーズをまちづくりに反映し、市民と行政が協働し、より発展的かつ具体的にまちづくりに取り組むため、新市では初めてとなる八代市総合計画基本構想(平成20年度～平成29年度)が平成19年6月定例会において議決されました。さらに、前期基本計画(平成20年度～平成24年度)、後期基本計画(平成25年度～平成29年度)及び実施計画を策定し、市の将来像である「やすらぎと活力にみちた魅力かがやく元気都市“やつしろ”」の実現に向けて、各種施策の推進に取り組んでいます。

また、将来にわたり安定した行財政運営を行うため、今後の市政のあり方に対する改革の指針を示し、総合計画の着実な達成を行財政面から支援する八代市行財政改革大綱(第一次：平成18年11月～平成22年3月、第二次：平成22年4月～平成27年3月)では、市町村合併の効果を最大限に引き出すとともに、限りある予算・人財・資源といった行政資源を効率的に活用し、市民目線を取り入れた市政改革を進めています。

合併により広大な市域を有し、山・川・海の豊かな自然に恵まれることとなった本市は、今後は基幹産業である第一次産業の活気を取り戻し、さらに九州のほぼ中央に位置し、陸は九州縦貫自動車道や九州新幹線、海からは八代港という交通の要衝としての地の利を生かして、企業誘致や観光集客にも力を注いで「元気と活気ある都市づくり」を目指します。

## 4 市域の変遷

市町村	面積 (km <sup>2</sup> )	年月日	合体・ 編入等	旧市町村
旧八代市	146.85	昭和15年9月1日 昭和18年4月1日 昭和25年7月1日 昭和29年4月1日 昭和29年7月1日 昭和30年4月1日 昭和31年4月1日 昭和32年1月1日 昭和36年3月1日	合体 編入 分立 編入 " " " " "	八代町・太田郷町・植柳村・松高村、市制施行 郡築村 市より郡築村分立 金剛村・高田村・八千把村 郡築村 宮地村・日奈久町 昭和村 二見村 龍峯村
旧坂本村	162.82	昭和36年4月1日	合体	下松求麻村・上松求麻村・百済来村、村制施行
旧千丁町	11.18	明治22年4月1日 昭和3年9月1日 昭和51年9月1日	合体 分立	古閑出村・新牟田村・吉王丸村・太牟田村（千丁町になる） 昭和村分立 町制施行
旧鏡町	28.24	昭和30年2月1日	合体	鏡町・有佐村・文政村
旧東陽村	64.56	昭和30年2月1日	合体	種山村・河俣村、村制施行
旧泉村	266.59	昭和29年10月1日	合体	柿迫村・栗木村・仁田尾村・樅木村・椎原村・久連子村・下岳村・葉木村、村制施行
八代市	680.24	平成17年8月1日	合体	八代市・坂本村・千丁町・鏡町・東陽村・泉村、市制施行

## 5 人口・世帯

### (1) 国勢調査人口推移

年	人 口			世 帯 数 (戸)	性 比 (女100人につき)	1世帯当たり 人 員
	総数(人)	男(人)	女(人)			
昭和25	155,373	74,627	80,746	27,592	92.42	5.63
30	164,725	79,106	85,619	29,017	92.39	5.68
35	164,685	78,341	86,344	31,828	90.73	5.17
40	156,277	73,289	82,988	33,968	88.31	4.60
45	149,647	69,802	79,845	36,072	87.42	4.15
50	147,715	69,237	78,478	38,266	88.22	3.86
55	150,389	70,862	79,527	40,818	89.10	3.68
60	149,421	70,529	78,892	42,188	89.40	3.54
平成 2	145,959	68,273	77,686	42,975	87.88	3.40
7	143,712	67,613	76,099	44,956	88.85	3.20
12	140,655	65,917	74,738	46,056	88.20	3.05
17	136,886	63,823	73,063	46,983	87.35	2.91
22	132,266	61,446	70,820	47,458	86.76	2.79

## (2) 年齢別人口推移

(国勢調査)

調査年 人口 年齢別	平成 17 年			平成 22 年		
	総数 (人)	男 (人)	女 (人)	総数 (人)	男 (人)	女 (人)
	136,886	63,823	73,063	132,266	61,446	70,820
0～4歳	5,524	2,807	2,717	5,010	2,537	2,473
5～9	6,410	3,272	3,138	5,509	2,777	2,732
10～14	6,942	3,590	3,352	6,323	3,240	3,083
15～19	7,661	4,002	3,659	6,640	3,565	3,075
20～24	6,120	2,931	3,189	5,099	2,323	2,776
25～29	6,848	3,308	3,540	6,075	2,909	3,166
30～34	7,562	3,692	3,870	6,790	3,289	3,501
35～39	7,521	3,621	3,900	7,413	3,628	3,785
40～44	7,980	3,842	4,138	7,373	3,569	3,804
45～49	8,921	4,384	4,537	7,829	3,772	4,057
50～54	10,187	4,941	5,246	8,732	4,277	4,455
55～59	10,785	5,275	5,510	10,034	4,827	5,207
60～64	9,037	4,139	4,898	10,600	5,156	5,444
65～69	9,020	3,950	5,070	8,676	3,924	4,752
70～74	9,141	3,952	5,189	8,427	3,618	4,809
75～79	7,843	3,256	4,587	8,218	3,376	4,842
80～84	4,964	1,655	3,309	6,574	2,528	4,046
85～89	2,739	745	1,994	3,495	976	2,519
90～94	1,116	267	849	1,496	325	1,171
95～99	279	48	231	432	66	366
100歳以上	35	6	29	60	7	53
不詳	251	140	111	1,461	757	704

## (3) 住民基本台帳人口

## ①推移

(3月31日現在)

年	区 分	人 口 (人)	男 (人)	女 (人)	世 帯 数 (戸)
H22		134,447	62,858	71,589	51,806
H23		133,706	62,523	71,183	52,166
H24		132,861	62,201	70,660	52,480
H25		132,775	61,922	70,853	53,483
H26		131,797	61,386	70,411	53,941

②校区別人口及び世帯数

(3月31日現在)

年 校区名	H 24				H 25				H 26			
	世帯(戸)	男(人)	女(人)	計(人)	世帯(戸)	男(人)	女(人)	計(人)	世帯(戸)	男(人)	女(人)	計(人)
代 陽	3,572	3,574	4,288	7,862	3,602	3,583	4,309	7,892	3,609	3,545	4,290	7,835
八 代	2,571	2,752	3,121	5,873	2,571	2,714	3,104	5,818	2,552	2,651	3,024	5,675
太田郷	6,576	7,197	8,150	15,347	6,654	7,222	8,200	15,422	6,777	7,229	8,274	15,503
植 柳	2,087	2,405	2,723	5,128	2,086	2,399	2,691	5,090	2,082	2,357	2,668	5,025
麦 島	3,559	3,860	4,440	8,300	3,609	3,857	4,481	8,338	3,620	3,864	4,446	8,310
松 高	4,467	5,452	6,046	11,498	4,538	5,459	6,096	11,555	4,585	5,440	6,076	11,516
八千把	6,138	7,210	8,096	15,306	6,287	7,220	8,114	15,334	6,374	7,211	8,080	15,291
高 田	3,670	4,155	4,823	8,978	3,710	4,106	4,819	8,925	3,772	4,103	4,791	8,894
金 剛	1,981	2,865	3,092	5,957	2,032	2,838	3,080	5,918	2,074	2,849	3,097	5,946
郡 築	1,507	2,194	2,423	4,617	1,814	2,216	2,626	4,842	1,896	2,191	2,650	4,841
昭 和	332	585	623	1,208	396	587	677	1,264	400	574	669	1,243
宮 地	1,520	1,696	1,931	3,627	1,517	1,661	1,914	3,575	1,529	1,649	1,913	3,562
龍 峯	682	894	1,018	1,912	677	879	1,014	1,893	682	864	997	1,861
日奈久	1,521	1,449	1,816	3,265	1,506	1,434	1,762	3,196	1,478	1,376	1,719	3,095
二 見	859	987	1,110	2,097	852	958	1,072	2,030	850	920	1,051	1,971
坂 本	1,915	2,042	2,508	4,550	1,884	1,964	2,418	4,382	1,860	1,893	2,334	4,227
千 丁	2,409	3,353	3,841	7,194	2,465	3,375	3,819	7,194	2,486	3,338	3,787	7,125
鏡	5,441	7,278	8,136	15,414	5,617	7,224	8,218	15,442	5,664	7,163	8,182	15,345
東 陽	844	1,177	1,312	2,489	835	1,170	1,295	2,465	831	1,138	1,262	2,400
泉	829	1,076	1,163	2,239	831	1,056	1,144	2,200	820	1,031	1,101	2,132
計	52,480	62,201	70,660	132,861	53,483	61,922	70,853	132,775	53,941	61,386	70,411	131,797

(4) 人口動態

(3月31日現在)

区分 年	増加人口 (人)	自 然 動 態			社 会 動 態		
		出生(人)	死亡(人)	増 減(人)	転 入(人)	転 出(人)	増 減(人)
H22	△ 960	1,036	1,472	△ 436	3,141	3,665	△ 524
H23	△ 775	1,056	1,556	△ 500	3,121	3,396	△ 275
H24	△ 872	1,075	1,592	△ 517	3,103	3,458	△ 355
H25	△ 934	984	1,675	△ 691	3,389	3,632	△ 243
H26	△ 800	1,020	1,747	△ 727	3,639	3,712	△ 73

(5) 産業別就業人口

(単位：総数～人、比率～%) (国勢調査)

年 区 別	H 2		H 7		H 12		H 17		H 22		
	総 数	比 率	総 数	比 率	総 数	比 率	総 数	比 率	総 数	比 率	
総 数	70,569	100.0	70,523	100.0	67,649	100.0	65,043	100.0	59,261	100.0	
第一次産業	農 業	13,932	19.7	12,183	17.3	9,656	14.3	9,008	13.8	7,816	13.5
	林 業	248	0.4	178	0.3	164	0.2	95	0.1	160	0.3
	漁 業	559	0.8	530	0.8	405	0.6	304	0.5	271	0.5
	計	14,739	20.9	12,891	18.3	10,225	15.1	9,407	14.5	8,247	14.2
第二次産業	鉱業、採石業、砂利採 取	140	0.2	216	0.3	146	0.2	52	0.1	37	0.1
	建 設 業	6,678	9.5	7,492	10.6	7,619	11.3	6,506	10.0	4,924	8.5
	製 造 業	11,989	17.0	11,128	15.8	10,517	15.5	9,516	14.6	8,391	14.5
	計	18,807	26.7	18,836	26.7	18,282	27.0	16,074	24.7	13,352	23.0
第三次産業	電気・ガス・熱供給・水道業	350	0.5	345	0.5	335	0.5	246	0.4	211	0.4
	情報通信業							205	0.3	205	0.4
	運輸業・郵便業	3,963	5.6	4,100	5.8	3,876	5.7	3,058	4.7	3,023	5.2
	卸売業・小売業	15,310	21.7	15,664	22.2	14,819	21.9	11,987	18.4	9,966	17.2
	金融業・保険業	1,424	2.0	1,358	1.9	1,261	1.9	1,070	1.6	942	1.6
	不動産業・物品賃貸業	225	0.3	242	0.3	202	0.3	279	0.4	476	0.8
	宿泊業・飲食サービス業							2,825	4.3	2,862	4.9
	教育、学習支援業							2,440	3.8	2,335	4.0
	医療、福祉	13,736	19.5	15,111	21.4	16,272	24.1	7,226	11.1	8,228	14.2
	複合サービス事業							968	1.5	562	1.0
	学術研究、専門・技術サービス業									961	1.7
	生活関連サービス業、娯楽業							6,816	10.5	2,309	4.0
	サービス業(他に分類されないもの)									2,532	4.4
	公務(他に分類されるものを除く)	1,957	2.8	1,915	2.7	2,228	3.3	2,038	3.1	1,765	3.0
	計	36,965	52.4	38,735	54.9	38,993	57.6	39,158	60.2	36,377	62.7

※総数には「分類不能産業」を含む。

6 土地利用状況

(4月1日現在、単位：ha)

年	田	畑	宅地	池沼	山林	原野	雑種地	その他	合計
H22	7,057	1,347	2,611	115	14,151	200	587	41,992	68,060
H23	7,038	1,341	2,636	114	14,387	199	569	41,776	68,060
H24	7,021	1,337	2,649	114	15,391	196	602	40,750	68,060
H25	7,005	1,333	2,662	112	15,409	196	613	40,730	68,060
H26	6,993	1,329	2,675	108	15,475	200	614	40,666	68,060

(平成26年度 概要調書より)